スクウェルチ　パッキング　法について

2011.6.10.　　谷村　博美

インパルス式脱気シール機を使って

１．　用意するもの

１）酸素バリアのあるプラスチックの袋　　２）水取り紙　（新聞紙）
２）ポリエステル紙などの不織布　（新聞紙が本に付着するのを防ぐ）

２．新聞紙、不織布を用意する

適当な大きさに切る：本の上下１ｃｍ程度、長い目に切っておく

新聞紙の上に不織布を置く

２度目のパッキングからは不織布を変える必要はないので、新聞紙のみを取り換える。
（新聞紙は汚れや海水を吸い取るので、再使用しないようにして下さい）

３．不織布を巻く

（薄いので重なりは気にならない。）

４a　さらに新聞紙でくるむ。

新聞紙の重なりによって出来る段差が内側にならないようにする。

＊本が１冊の場合はこの状態で、脱気しシールする。

４ｂ　３冊程度、一つの袋にパッキングしてもよい。

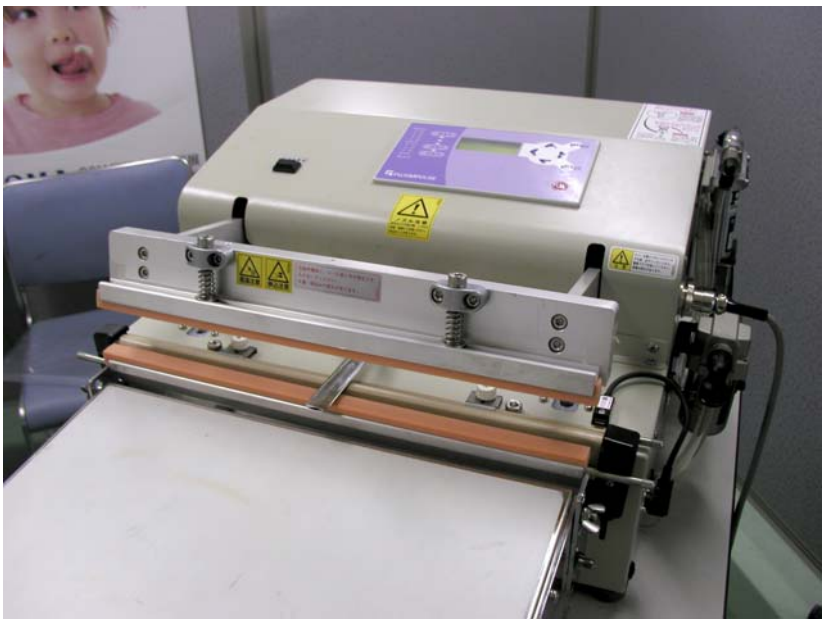
パッキングの最後の１，２回は本の形を整えて、１冊づつにするか、２冊までにする。

新聞紙を巻くことによって出来る段差が本の形に影響を与えないよう工夫する。

Ａ．新聞紙は巻きつけずに、本を二つ折りの新聞紙の間に挟むだけにする。　　あるいは、

Ｂ．真ん中の本のみ　Ａのようにし、上下の本は、段差を外側にする。

５．機械は脱気の後、即シールし、さらにシールの熱をさます仕組みになっている。



中央に脱気用ノズルが出ている状態

4 回フットスイッチを踏む：

第１回目スイッチ　シールするための挟み（シール面）が開き、中央からノズルが出てくる。
（１ページの最初の写真参照）

ノズルを袋の中に差し込み、シール位置を確かめながら袋の上端を整えて挟みの間に入れる。

２回目フットスイッチ　　挟みが閉じられる。
（圧着レバーが閉じられるまで強く踏み込む。）

＊　<u>この時点で、袋の内容物をノズルの近くまで持ってくる。</u>
（ノズルの先端が最も空気の残りやすい場所にあることによって、脱気しやすくなる。）

第３回目スイッチ　　バキュームが開始される。（脱気中ランプ点灯）

第４回目スイッチ　　適切なバキュームが完了した時点で踏み込むと
下記の作業が自動的に行われる。

a.　脱気終了
b.　ノズル後退
c.　シール開始　（加熱）
d.　加熱終了後、冷却

（脱気中、加熱中、冷却中ランプの点灯・消灯）

自動的に上記シールが完了して、圧着レバーが上がり（挟みが開き）
ノズルが（次の脱気シール用に）前進してくる。

これで、第１回目のパッキングは完了

びしょ濡れの厚みのある本の場合、パッキングして１０分ほどで
新聞紙に水がにじみ出る。

第１回目のパッキングから最後の６回目あたりまで，約２週間、あるいはそれ以上かかります。
乾いていくに従って、水分吸収にだんだん、より長い時間がかかり、パッキングしている時間は最初の１日半くらいから少しずつ長くなり、最後のパッキングはかなりの時間がかかります。
根気よく完全に乾くまで、パッキングから出さないことが非常に大事です。

乾いていくと、ページがだんだんとはずれ、本が開けるようになってきます。コート紙がはずれるのは一番あとですので、くれぐれも、自然に外れるまで無理にはがさないようにしてください。
ページが開けるようになってから、必要であれば本や本の中の状態を整えて、最後の仕上げのパッキングに入ってください。
この状態であれば、（必要な場合には）本のまんなかのほうのページの間にも水取り紙をはさむとこともできるようになります。

機械（**富士インパルス製　マイコン制御　卓上式脱気シーラー　V-402**）は、
富士インパルスとラーソン・ジュール・ニッポンよりご提供いただきました。

紙　保存修復家　谷村博美